

YOSAKOIソーラン作品における 音楽と体の動きの同期

—— “曲” と “振り” の関係評価に与える踊り子経験の影響 ——

後 藤 靖 宏

YOSAKOIソーラン作品における音楽と体の動きの同期 ——“曲”と“振り”の関係評価に与える踊り子経験の影響——¹⁾

後藤 靖 宏

目次
はじめに
方法
結果
考察
謝辞

はじめに

本研究の目的は、YOSAKOIソーラン祭りの演舞作品において、音楽と体の動きの同期評価がどのようになされているのかを認知心理学的に検討することである。本研究では特に、評価者の踊り子経験に焦点を絞り、その有無によって両者の関係評価に違いがあるのかということを実験的に検証した。

YOSAKOIソーラン祭りは、「街は舞台だ」というスローガンのもと、北海道札幌市を中心として毎年6月に開催されるイベントである。2011年で第20回を迎えたこの祭りは、最近では300を超えるYOSAKOIチームが街中を踊り歩くという、非常に大規模なイベントに成長した。YOSAKOIソーランの基本的な特徴は、踊りや音楽、衣装など、あらゆる面において自由度が高いという点にある。原則として、鳴子を持って踊ることと、曲中に「ソーラン節」のフレーズを入れること以外は、踊りも衣装もすべて各チームの自由である。また、1つの演舞作品は約5分であり、構成や振り付けもチームによってさまざま

ある。このようなYOSAKOIソーランの自由さ故に、演舞作品やチームそのものに対する好き嫌いはもちろん、それらに対する良し悪しの判断は、観客や審査員、踊り子の主観によって行われざるを得ない。この結果、観客の評価と、審査員による審査結果が必ずしも一致しないなどといったことがおこる。

YOSAKOIソーラン祭りの作品とは、音楽にあわせて「振り」と呼ばれる体の動きを表現したものの総体を指す。こうしたYOSAKOIソーラン作品を評価する場合、認知心理学的に考えると、音楽という聴覚情報と、振りという視覚情報を有機的に関連づけて認知するという処理が必要になってくる。音楽と同時に再生される視覚情報との関連性については、過去に様々な研究によって検証されてきた。菅野・岩宮(2000)は動画像と音列を組み合わせた視聴覚素材を用いた実験を行った。彼らは、動画像のカットチェンジおよび音列の強拍の同期と、動画像の速さおよび音列のテンポの対応が、視聴覚素材の調和感と情緒的印象に対して及ぼす効果の大きさを比較した。その結果、前2つは調和感に対して独立した効果を及ぼすことや、動画像のカットチェンジと音列の強拍の同期が調和感に大きな影響を及ぼしていることなどがわかった。

丸山・安藤(1997)や菅野・岩宮(1999)は、画面上を円および球体が運動するという材料を用い、それらの速さを被験者が変えること

キーワード：YOSAKOIソーラン、振り、曲、同期、経験

ができるようにして、被験者が音楽に対してどのように映像を調和させるのか調べた。音楽と映像の調和に影響を及ぼす要因について検討した結果、速いテンポの音楽と速い円の動きがよりマッチするという関係があることが示された(丸山・安藤, 1997)。また、菅野・岩宮(1999)では、音楽の拍節的アクセントの同期が調和に大きな影響を及ぼしていることがわかった。特に、円運動のように明確なアクセントがない場合は調和判断の基準が曖昧になり、逆に正方形運動の場合は明確なアクセントがあるため調和判断の基準は明確となることや、音楽の拍節的アクセントの明確さはその音楽と調和する映像の動きの速さに影響を及ぼすことが明らかになった。これらの研究はすべて、音楽のアクセントと、音楽に融合する視覚情報の動きのアクセントには高い関連性があることを示している。

さて、そうした視覚情報と聴覚情報の統合体である「踊り」について、これまでクラシックバレエやモダンダンス、創作ダンスなど、様々な舞踊に関する研究がされてきた。猪崎・松浦(2004)は、古典バレエ、モダンバレエ、モダンダンス、地唄舞および韓国舞踊を用いて、抽出されるイメージ因子の普遍性を検討した。その結果、距離性因子・調和性因子・審美性因子・明快性因子および弾力性因子によってイメージの70%以上が説明されることを見いだした。また、伊藤(2009)は、モダンバレエを鑑賞した際に感得される印象について調べた。その結果、モダンバレエの特徴として7因子が抽出された。伊藤(2009)によれば、その中の「新奇性」はモダンバレエに特有の特徴であるとしている。さらに、阪田・八村・丸茂(2003)は、日本舞踊の演舞から感得されるイメージと、イメージに運動の型がどのような影響を及ぼしているかを検討した。その結果、日本舞踊独自のイメージが抽出され、振りから感得されるイメージにはそのイメージ固有の運動の型が寄与してい

ることがわかった。このように、さまざまな舞踊に関する研究がなされ、それぞれの舞踊に固有の特徴が見いだされているということを見ると、YOSAKOIソーランに特化して舞踊の特性を検討することも非常に興味深いことだと考えられる。

ところで、こうした舞踊の評価には、実際に自身で踊った経験をもつ者と、そのような経験がない者によって違いがあると考えられる。柴・坪倉・三宅・徳家(1997)は、一般学生とダンス部学生を対象とし、擬態語から想起する動きとイメージにおける共通性と差異を検討した。その結果、動きの型に関して両者の評価はほとんど等しかったにも関わらず、ダンス部学生は、自身のダンス経験をもとに一般学生にないイメージや動きを想起したことがわかった。また、明尾(1990)は、アルビン・エイリー舞踊団の作品を用いて、大学生のダンス授業の受講前と受講後に評価基準が変化するかどうかを、舞踊に関する批評用語を用いて検討した。その結果、授業受講後には批評用語をより感じられるようになったことを報告している。

そこで本研究では、YOSAKOIソーランの演舞作品から受ける印象や作品に対する好き嫌いの評価にとって、YOSAKOIソーランに踊り子として参加した経験がどのように影響するのかを調べた。演舞作品の評価という点で、今回特にYOSAKOIソーランの演舞作品の要素である「曲」と「振り」に焦点を当てた。これは先に述べたように、YOSAKOIソーランの演舞作品は聴覚情報である「曲」と視覚情報である「振り」が統合されたものであり、両者の同期性がその評価に大きく関わっていると予想されるからである。

今回この研究を行うにあたり以下のような仮説を立てる。まず、曲と振りが完全に同期している作品映像については、経験者も非経験者も、ともに高い評価をするであろう。一方、曲と振りのテンポや意味がずれているような

作品映像に関しては、上述の柴ら（1997）や明尾（1990）の結果からも、経験の有無が評価に影響を与えるということが予想される。また経験者は、曲と振りの同期により一般にはないイメージを想起する（柴ら、1997）ために、非経験者とは異なる評価やイメージを感得するであろう。反対に、非経験者は経験者のようなイメージの想起ができないと予想されるため、同期性によって生じる評価の差が経験者より小さいことが考えられる。

方法

被験者 北星学園大学の学生65名（男性15名、女性50名、平均年齢20.5歳）が実験に参加した。被験者はYOSAKOIソーラン経験の有無で分類し、65名のうち33名はYOSAKOIソーラン経験者、残りの32名は非経験者であった。経験者は「井原水産&北星学園に2年以上所属し、同チームの踊り子としてYOSAKOIソーラン祭りに参加した経験のある者」とした。また、非経験者は「YOSAKOIソーラン祭りに踊り子として参加したことがない者」とした。

実験計画 2要因の実験計画を用いた。第1の要因はYOSAKOI経験の有無（経験あり条件/経験なし条件）であり、被験者間要因であった。第2の要因は曲と振りの一致度合い（完全一致条件/テンポ不一致条件/意味不一致条件/不一致条件）であり、被験者内要因とした。

装置 映像の再生機材として、DVDプレーヤー（SHARP製DV-SF80P）、プロジェクター（SONY製RM-PJVW10）およびスクリーン（KIKUCHI PUROJECTION SCREEN SUPER GRAIN BEADS 260G）を用いた。

材料 YOSAKOIチーム「井原水産&北星学園」の2001年の演舞作品である「結」をもとにして、「完全一致」、「テンポ不一致」、「意味不一致」および「不一致」の4種類の映像

を作成した。まず、「完全一致」とは、「結」そのものの曲と振りを組み合わせたものであった。次に、「テンポ不一致」とは、「結」の曲と振りを組み合わせる際に、曲を振りより遅らせることで、曲のアクセントと振りのアクセントをずらして組み合わせたものであった。続く「意味不一致」とは、「結」の振りの一部に、その振りとは別な部分の曲の一部を合わせ組み合わせたものであった。最後の「不一致」とは、「結」ではない別の曲を「結」の振りに合わせ、タイミングを合わせずに組み合わせたものであった。これらの映像は全て、「井原水産&北星学園チーム」に2年以上所属している踊り子1名による演舞を撮影したものであった。踊り子の服装は黒の衣服で統一した。映像の長さはそれぞれ30～40秒であった。不一致条件に用いた音源は、井原水産&北星学園チーム音源（1997）であった。

質問紙には、映像の好き嫌い、評価語を用いた映像の印象評定、および映像の曲と踊りが合っていたかどうかの質問項目を作成した。評価語は次のようにして選択した。まず、伊藤（2009）が予備調査の際に用いた舞踊評価の形容詞121語に、北川（1996）、軍司（1996）および飯田+YOSAKOIソーランまつり普及振興会（1996）らが本文で用いていた形容詞でYOSAKOIソーランを表すと考えられる16語を加えた計137語を準備した。次に、本実験に参加しない経験者3名、非経験者9名に井原水産&北星学園チームビデオ（2001）から「結」の演舞映像を呈示し、当てはまると感じた形容詞を選択させた。その結果、半数以上の7人が選出したものが37語となった。このうち、「強い」と「軽やかな」はそれぞれ「力強い」および「軽い」と意味が類似している単語と判断して削除した。また、「曲線的な」、「暖かい」および「軽い」の3語については、経験者の半数以上が選択したために使用することとした。使用した評価語

表1. 本実験で使用した評価語

積極的な	大胆な
表現的な	元気な
熱心な	多面的な
独特な	爽やかな
魅力的な	ひろがっていく
創造的な	ダイナミックな
独創的な	アクセントのある
力強い	印象的な
動的な	奇抜な
斬新な	曲線的な
大きい	軽い
スピードのある	加速的な
情熱的な	奔放な
現代的な	特徴的な
激しい	カッコいい
流動的な	リズムカルな
華やかな	勇ましい
豪快な	暖かい
強烈な	メリハリのある

を表1に示す。

映像の好き嫌い、評価語については1を「好きではない」、「当てはまらない」とし、7を「好きだ」、「当てはまる」の7件法で評価させた。映像の曲と踊りが合っていたかどうかについては6件法であり、1を「合っている」とし、6を「合っていない」として評価させた。最後に、YOSAKOIソーラン祭りについてどう思うか、YOSAKOIソーラン祭りに踊り子としての参加経験はあるか、YOSAKOI以外のダンス経験はあるか、および映像に出演していた人物を知っているかどうかを自由記述させた。

手続き 実験は、1回につき1名～7名で行なった。まず、被験者をスクリーンの前の椅子に座らせ、実験の流れとして、YOSAKOIソーランの踊りの映像を4つ見せるといふこと、質問紙は4部配布しているのので1つの映像につき1部の質問紙に回答するといふことを教示した。4つめの質問紙回答が終了したところで実験を終了した。質問紙の評価時間は特に指定しなかった。

結果

経験者群33名のうち、1名は経験者として

の条件である「井原水産&北星学園に2年以上所属し踊り子としてYOSAKOIソーラン祭りに参加した経験のある者」を満たさなかったため除外した。よって、経験者32名、非経験者32名のデータを分析の対象とした。

まず、経験の有無要因と曲と振りの一致度合い要因を独立変数、曲と振りの一致度合い評価を従属変数とし、各映像における評価について繰り返しのある分散分析を行った。その結果、一致度合いの主効果 ($F[3,186] = 34.75, p < .001$) と、経験要因の主効果 ($F[1,62] = 20.48, p < .001$) が見られた。経験要因の平均値は、それぞれ経験あり ($M = 3.72$)、経験なし ($M = 2.88$) であった。また、一致度合いと経験の有無の交互作用も見られた ($F[3,186] = 5.34, p < .005$)。

曲と振りの一致度要因の4つの条件に関して、経験別にBonferroni法により単純主効果の検定を実施した。その結果、まず経験者群において、完全一致条件 ($M = 1.81$) とテンポ不一致条件間 ($M = 4.00$)、意味不一致条件間 ($M = 4.13$) および不一致条件間 ($M = 4.94$) において、それぞれ有意差が見られた (すべて $p < .05$)。また、テンポ不一致条件 ($M = 4.00$) と不一致条件間 ($M = 4.94$) において、有意傾向が見られた ($p = .072$)。

非経験者群においては、完全一致条件 ($M = 2.09$) と不一致条件間 ($M = 4.13$)、意味不一致条件 ($M = 2.44$) と不一致条件間 ($M = 4.13$) およびテンポ不一致条件 ($M = 2.88$) と不一致条件間 ($M = 4.13$) においてそれぞれ有意差が見られた (すべて $p < .05$)。一致度合いごとの経験別平均値について図1に示す。

続いて、経験の有無と各映像においてその映像に対する好き嫌い評価について、経験の有無要因と曲と振りの一致度合い要因を独立変数、好き嫌い評価を従属変数として繰り返しのある分散分析を行った。その結果、一致度の主効果のみ有意であり ($F[3,186] =$

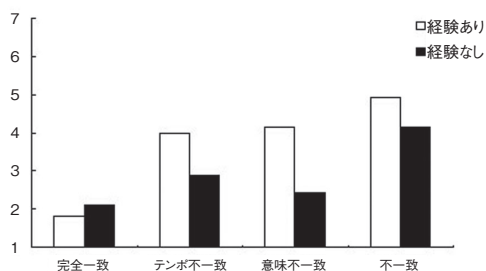


図1. 曲と振りの一致度合い評価における経験別平均値

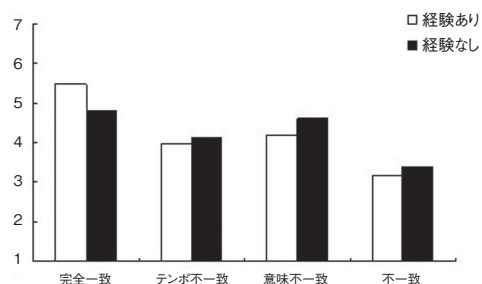


図2. 好き嫌い評価における経験別平均値

18.30, $p < .001$), 経験の主効果は見られなかった ($F[1,62] = 0.01, n.s.$)。また, 好き嫌い評価と経験の有無について交互作用は見られなかった ($F[3,186] = 1.81, n.s.$)。

一致度合いに主効果が見られたため, Bonferroni法により多重比較の検定を実施したところ, 完全一致条件 ($M = 5.16$) とテンポ不一致条件 ($M = 4.05$) および不一致条件 ($M = 3.28$) との間に有意差が見られた (すべて $p < .001$)。また, 完全一致条件 ($M = 5.16$) と意味不一致条件 ($M = 4.41$) およびテンポ不一致条件 ($M = 4.05$) と不一致条件 ($M = 3.28$) との間に有意差が見られた (すべて $p < .05$)。一致度合いごとの経験別平均値について結果を図2に示す。

次に, 評価語に対する評価と, 経験の有無および一致度との関係を見るために, まず因子分析 (主因子法, プロマックス回転) を用いて形容詞をグループ化した。被験者1人につき4本の映像を見ているため, 総データ数は256個 (64名×4本) であった。欠損値は平均値で置換した。その結果, 固有値が1以上

の基準で7因子が抽出された。各因子に含まれる語を, 因子負荷量の高い順に表2に示した。

第1因子は, 「リズムカルな」, 「スピードのある」, 「激しい」, 「動的な」などに対する負荷量が高いため, 「活発性」に関する因子であると解釈した。第2因子は, 「豪快な」, 「大胆な」, 「強烈な」, 「勇ましい」などに対する負荷量が高いため, 「パワー性」に関する因子であると解釈した。第3因子は, 「独特な」, 「奇抜な」, 「斬新な」, 「独創的な」などの負荷量が高かったため, 「オリジナル性」に関する因子であると解釈した。第4因子は, 「熱心な」, 「表現的な」, 「情熱的な」, 「積極的な」に対して負荷量が高かったため, 「意欲性」に関する因子であると解釈した。第5因子は, 「曲線的な」, 「流動的な」, 「暖かい」, 「ひろがっていく」などの負荷量が高かったため, 「柔軟性」に関する因子であると解釈した。第6因子は, 「魅力的な」, 「カッコいい」, 「印象的な」の負荷量が高かったため, 「感動性」に関する因子であると解釈した。第7因子は, 「メリハリのある」, 「アクセントのある」の負荷量が高かったため, 「強調性」に関する因子であると解釈した。累積寄与率は65.374%であった。

こうして抽出された因子の評価が, それぞれ一致度と経験の有無とどのような関係になっているかを見るために, 経験の有無と曲と振りの一致度合いを独立変数, 因子の評価を従属変数として2×4の分散分析を行った。まず, 「活発性因子」(図3)については, 一致度合い要因に主効果が見られた ($F[3,248] = 4.56, p < .01$)。しかし経験要因には主効果は見られず ($F[1,248] = 0.18, n.s.$)。また一致度合い要因と経験要因との間に交互作用は見られなかった ($F[3,248] = 0.24, n.s.$)。一致度合いに主効果が見られたため, Bonferroni法により多重比較の検定を実施したところ, 完全一致条件 ($M = 0.26$) と不一致条件 ($M =$

表 2. 映像評価語に対する因子分析結果

項目	活発性	パワー性	オリジナル性	意欲性	柔軟性	感動性	強調性	共通性
リズムカルな	.861	-.107	-.078	-.084	-.057	.220	.082	.761
スピードのある	.847	.117	-.028	-.031	-.203	-.029	.097	.595
激しい	.812	.260	.063	.011	-.167	.052	-.131	.712
動的な	.809	.063	.015	.205	-.079	.020	-.115	.680
加速的な	.789	.124	-.064	-.058	.022	-.016	.004	.783
現代的な	.788	-.133	.024	-.011	-.040	.227	-.123	.659
元気な	.774	.033	-.038	.246	-.017	-.114	.053	.749
軽い	.747	-.307	.060	-.072	.369	-.105	-.023	.711
爽やかな	.487	-.193	-.190	.081	.367	.082	.287	.749
奔放な	.419	.033	.163	.004	.241	-.296	.122	.684
多面的な	.249	.114	.205	-.037	.176	-.014	.183	.571
豪快な	.138	.838	.021	.045	.051	-.039	-.118	.855
大胆な	.130	.796	.158	-.179	.040	-.058	.012	.680
強烈な	.131	.747	.127	-.153	.108	.029	-.043	.516
勇ましい	-.356	.664	-.179	.096	.067	.248	.130	.815
力強い	-.146	.562	-.115	.516	-.038	.067	-.016	.366
ダイナミックな	.071	.558	.032	.191	.060	-.079	.148	.571
大きい	-.034	.502	-.031	.274	.069	-.080	.168	.776
独特な	-.143	-.187	.866	.240	-.072	.000	-.043	.684
奇抜な	.055	.152	.799	-.170	-.007	-.067	.015	.740
斬新な	.192	.011	.798	.032	-.174	-.006	-.008	.844
独創的な	-.050	-.042	.768	.077	.077	.264	-.121	.430
特徴的な	-.115	.098	.746	-.104	.015	-.083	.202	.652
創造的な	-.021	-.050	.517	.129	.151	.380	-.026	.502
熱心な	.170	-.040	.041	.813	-.054	.049	-.076	.668
表現的な	-.112	.118	.145	.498	.215	.201	-.065	.671
情熱的な	.198	.315	.002	.489	.114	.112	-.143	.640
積極的な	.455	-.029	-.007	.489	-.131	-.037	.200	.694
曲線的な	-.174	.080	.012	.024	.819	-.055	-.213	.597
流動的な	.191	.230	-.152	-.025	.566	.098	-.266	.594
暖かい	-.072	-.060	.023	-.074	.473	-.006	.409	.673
ひろがっていく	-.193	.143	.099	.162	.469	.043	.156	.469
華やかな	.333	.096	-.143	-.085	.366	.286	.182	.652
魅力的な	.127	-.067	.133	.236	.016	.599	.171	.665
カッコいい	.122	.313	-.148	.053	-.024	.480	.221	.730
印象的な	.029	.139	.345	-.079	.035	.390	.265	.582
メリハリのある	.098	.178	-.014	-.065	.227	.200	.711	.433
アクセントのある	.104	.029	.097	-.011	-.144	.235	.663	.716
固有値	14.190	3.922	2.328	1.766	1.199	.768	.670	
累積寄与率	37.342	47.662	53.788	58.436	61.590	63.612	65.374	

-0.36) との間有意差が見られた ($p < .05$)。

「パワー性因子」(図 4) については、一致度合い要因において主効果が見られた ($F[3,248] = 2.65, p < .05$)。経験要因に主効果は見られず ($F[1,248] = 0.01, n.s.$)、また一致度合い要因と経験要因との間に交互作用は見られなかった ($F[3,248] = 0.61, n.s.$)。一致度合いに主効果が見られたため、Bonferroni 法により多重比較の検定を実施したところ、完全一致条件 ($M = 0.24$) と不一致条件 ($M = -0.21$) との間有意差が見られた ($p < .05$)。

「オリジナル性」(図 5) については、一致度合い要因に主効果は見られず ($F[3,248] = 0.24, n.s.$)、経験要因において主効果が見ら

れた ($F[1,248] = 22.31, p < .001$)。経験要因の平均値は、それぞれ経験あり ($M = 0.27$)、経験なし ($M = -0.27$) であった。一致度合い要因と経験要因との間に交互作用は見られなかった ($F[3,248] = 1.45, n.s.$)。

「意欲性因子」(図 6) については、一致度合い要因の主効果 ($F[3,248] = 7.58, p < .001$) と経験要因の主効果 ($F[1,248] = 6.25, p < .05$) が見られた。経験要因の平均値は、それぞれ経験あり ($M = 0.14$)、経験なし ($M = -0.14$) であった。一致度合い要因と経験要因との間に交互作用は見られなかった ($F[3,248] = 0.95, n.s.$)。一致度合いに主効果が見られたため、Bonferroni 法により多重比較を実施したところ、完全一致条件 ($M =$

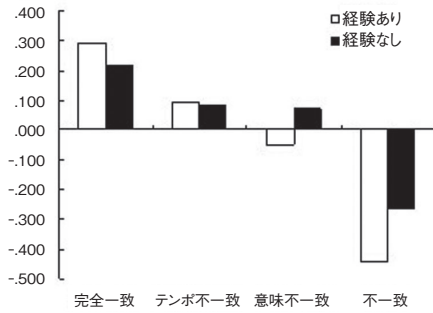


図3. 「活発性因子」における一致度合い要因の経験別因子得点平均

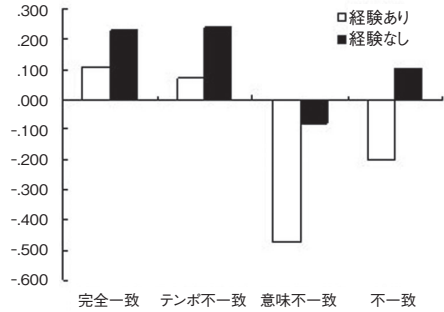


図7. 「柔軟性因子」における一致度合い要因の経験別因子得点平均

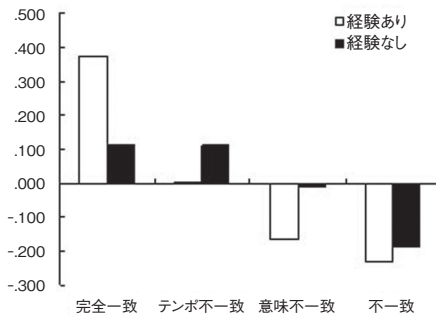


図4. 「パワー性因子」における一致度合い要因の経験別因子得点平均

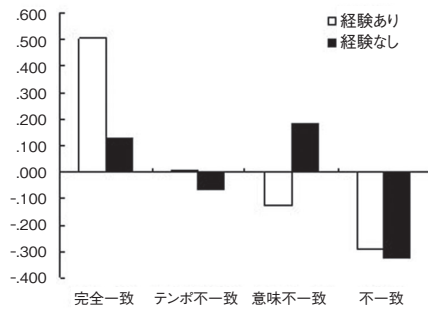


図8. 「感動性因子」における一致度合い要因の経験別因子得点平均

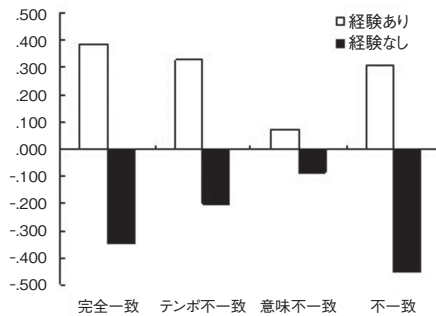


図5. 「オリジナル性因子」における一致度合い要因の経験別因子得点平均

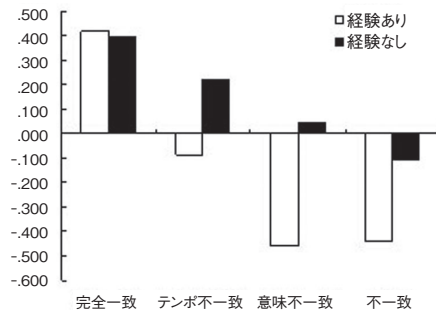


図6. 「意欲性因子」における一致度合い要因の経験別因子得点平均

0.41) と意味不一致条件 ($M = -0.21$) および不一致条件 ($M = -0.27$) との間には有意差が見られた (すべて $p < .05$)。

「柔軟性因子」(図7)については、一致度合い要因の主効果 ($F[3,248] = 3.44, p < .05$) と経験要因の主効果 ($F[1,248] = 4.83, p < .05$) が見られた。経験要因の平均値は、それぞれ経験あり ($M = -0.12$)、経験なし ($M = 0.12$) であった。一致度合い要因と経験要因との間に交互作用は見られなかった ($F[3,248] = 0.30, n.s.$)。一致度合いに主効果が見られたため、Bonferroni法により多重比較を実施したところ、意味不一致条件 ($M = -0.28$) と完全一致条件 ($M = 0.17$) およびテンポ不一致条件 ($M = 0.16$) との間には有意差が見られた (すべて $p < .05$)。

「感動性因子」(図8)については、一致度合いにおいて主効果が見られた ($F[3,248] = 5.41, p < .01$)。経験要因には主効果は見られ

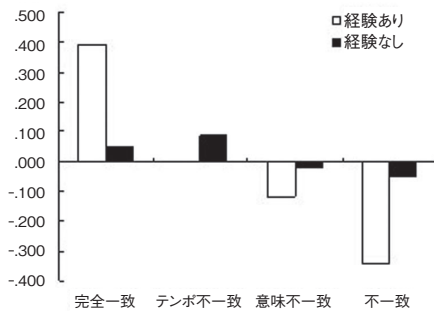


図9. 「強調性因子」における一致度合い要因の経験別因子得点平均

ず ($F[1,248] = 0.16, n.s.$), 一致度合い要因と経験要因との間に交互作用は見られなかった ($F[3,248] = 1.64, n.s.$)。一致度合いに主効果が見られたため, Bonferroni法により多重比較を実施したところ, 完全一致条件 ($M = 0.32$) と不一致条件 ($M = -0.31$) との間に有意差が見られた ($p < .001$)。

最後に、「強調性因子」(図9)については, 一致度合いにおいて主効果の有意傾向が見られた ($F[3,248] = 2.38, p = .071$)。経験要因に主効果は見られず ($F[1,248] = 0.10, n.s.$), 一致度合い要因と経験要因との間に交互作用は見られなかった ($F[3,248] = 1.40, n.s.$)。一致度合いに主効果の有意傾向が見られたため, Bonferroni法により多重比較を実施したところ, 完全一致条件 ($M = 0.22$) と不一致条件 ($M = -0.20$) との間に有意差が見られた ($p < .001$)。

考察

本研究の目的は, YOSAKOIソーランを踊った経験の有無によって, YOSAKOIソーランの演舞作品の評価に差があるかどうかを検討することであった。その際, YOSAKOIソーランの曲と振りに着目し, 曲と振りの一致度合いの判別力に焦点を当て実験を行った。

まず, 経験の有無が曲と振りの一致度合いの評価に差を生むのかを検討した。その結果,

経験者において最も高かった評価は, 最も一致度が高かったものに対する「合っている」という評価であった。逆に, 非経験者において最も顕著であった評価は, 最も一致度の低いものに対する「合っていない」という評価であった。このとき経験者は, これまでのYOSAKOIソーラン経験から踊りの持つメッセージ性や雰囲気を感じ取り, 一致度を判別する手がかりにしたことで, 最も一致度の高いものに対して「合っている」という評価をすることに繋がったと考えられる。一方, 非経験者については, リズムも雰囲気もちぐはぐな映像に対して最も明確に違和感を感じ, 「合っていない」という評価をした。しかし, それ以外の映像に対する評価からは, リズムは違っても使用している音楽はオリジナルと同じであったり, 雰囲気は違ってもテンポが踊りと音楽で合っていた場合, 多少の評価の差はあれ「合っている」と感じていると考えられる。つまり, 経験者はリズムや雰囲気の違いを自身の経験からの的確に判別し, 「合っていない」という評価をしたのに対し, 非経験者は, 経験のなさから経験者ほどリズムや雰囲気のみを判別できなかったと言える。その結果, 最も一致していない映像以外においては似たような評価をし, リズムも雰囲気も異なっているような, 最も一致度の低い映像にのみ大きく「合っていない」という反応を示したということであろう。

次に, 曲と振りの一致度合いによって映像の好き嫌いに差があるのかを検討した。その結果, まず経験の有無によって全体的な好き嫌いの評価に差がなく, 一致度合いの違う映像そのものに対する好みは似た傾向があることが示された。経験者は完全一致条件に対して「好きだ」という評価が最も高かった。これは, 前述した一致度評価と同一の結果であることから, 経験者の場合「一致度合い」はそのまま「好き嫌い」にも影響を与えていると考えられる。また, 雰囲気が異なったとし

でもリズムが同調していれば映像そのものへの違和感は薄くなり、評価が高まるという傾向が、非経験者の場合においてより明確に見られている。非経験者は完全一致の映像と意味不一致の映像を「好きだ」と判断していることから、非経験者の場合雰囲気の違いを判別することはリズムのずれを判別することよりもより困難であるということが考えられる。このことは、菅野・岩宮（1999）や丸山・安藤（1997）の「音楽のテンポと映像の動きのテンポには高い関連性がある」ということが、非経験者においても重要であったという議論とも一致している。

続いて、因子ごとの分散分析結果について述べる。活発性因子、パワー性因子、感動性因子および強調性因子では、経験の有無によって評価に差はなく、総じて完全一致と不一致の差が大きいという結果であった。一方、オリジナル性因子では、経験だけが評価に影響を与えていた。さらに、意欲性因子では、経験の有無に差があり、また全体で完全一致と意味不一致および不一致との間に差があった。柔軟性因子では、経験の有無に差があり、また全体で意味不一致と完全一致および不一致との間に差があった。

活発性因子、パワー性因子、感動性因子および強調性因子には、経験の有無は影響していない。これはすなわち、これらの4つの因子が、YOSAKOIソーランにおいて必要な要素であるということの意味していると考えられる。これらの要素はYOSAKOIソーラン祭りの演舞作品や祭りそのものの大枠のイメージとして捉えられているため、経験を問わず感得したものであると考えられる。逆に、オリジナル性因子は、経験のみ影響していた。これは、柴ら（1997）のように経験者が非経験者にはないようなイメージを想起し、オリジナル性を高めたと言えよう。

一方、意欲性因子および柔軟性因子は、それぞれ経験の影響と一致度合いの影響が見ら

れた。この場合、これらの因子に含まれる「表現的な」や「曲線的な」などの評価語が技術的な意味を持っているため、演舞作品を見た際の感じ方が経験の有無で変化する評価語の集まりであると考えられる。一致度合いの影響によって、映像から何らかの違和感を感じた場合、これらの技術的な意味合いの評価語は映像から汲み取りにくいということが考えられるであろう。

抽出された因子に対する評価は、一致度合いと経験との間に直接的な関係がなかった。つまり、演舞作品を見て受ける印象は経験の有無に関係なく、一致度合いによって変化するという全体の傾向があるということである。これは、演舞作品そのものがイメージをはっきり表現していたからだと考えられる。それに加え、経験者は演舞を鑑賞する際、経験者が非経験者にはないイメージを想起する（柴ら、1997）ということ、それほど行っていないのかもしれない。また、7因子中4因子がYOSAKOIソーランの必要なイメージであることから、YOSAKOIソーラン演舞に込められているイメージや、演舞から伝わる印象の多くはYOSAKOIソーランそのもののイメージや共通の表現であるということも考えられるであろう。

因子に対するこうした評価とは対照的に、一致度合い評価では一致度合いと経験との間には関係性があった。これは、一致度合いの判別に関して経験を生かすか否かが関わっていたものの、印象については経験を生かすということあまりなかったということであろう。作品としての違和感を感じるような一致度合いと、作品から自然に伝わってくる印象とでは、経験の生かし方が異なると考えられる。

これらをまとめると、YOSAKOIソーラン経験者と非経験者において、曲と振りの一致度合いを判別する能力は経験者の方が高く、よりの確に一致度合いを判別する傾向がある

といえる。その反面、経験者と非経験者におけるYOSAKOI演舞作品に対する視点は、経験に関係なく似た印象を感得するなど、必ずしも経験によって違いはないという結果が見られた。よって、経験者が自身の経験にもとづいてYOSAKOI演舞作品を鑑賞するのは、作品における違和感や技術的な面が多い傾向があると解釈できるであろう。つまり、YOSAKOI演舞経験の有無は、YOSAKOI演舞作品の評価に影響を与える面もあるということが示されていると考えられる。

YOSAKOIソーランの演舞作品は、そのチームによって異なるテーマを設けて、それに沿った作品を制作する。その際に、作成側は趣向を凝らし、どこでどのようなことを表現するかというイメージのもとに約5分の作品を作り上げていく。しかし、経験の有無による視点の違いのため、作成側が意図したイメージが観ている観客に正確に伝わるということが必ずしもできているというわけではない。その解決策の一つとして、YOSAKOIソーランの演舞作品における“テーマ”の重要性に着目したい。演舞作品には、例えば「サファリ」(井原水産&北星学園チーム2005年度テーマ)や「LAS VEGAS」(藤・北大&ホンダカーズ札幌チーム2008年度テーマ)などの具体的な言葉のテーマがある。テーマの言葉が具体的である場合は、曲や振りなどもそのテーマにもとづいて作られるため、作成側の意図がそのまま反映しやすいと考えられる。例えば、井原水産&北星学園チームの「サファリ」という作品は、振りに動物のような動きが入っていたり、曲が南国の熱帯地域を思わせるような曲調であったりと、誰もが持っているような「サファリ」のイメージを作品に反映させている。よって、「観客に伝えたいことを体現化・具現化する」ことが、観客にも作成側の意図が伝わる方法の一つであろう。

また、因子得点平均の結果より、経験者・非経験者共に活動性因子、意欲性因子の平均

値が高いことから、経験を問わずYOSAKOIソーランの「元気さ」や「情熱」などの要素を含んだ演舞は好感を持たれやすいということが言えよう。よって、YOSAKOIソーランの演舞作品において活発性因子および意欲性因子に含まれる要素をより表現することが、経験を問わず多くの人が好感を持つ演舞作品を作るためのポイントであり、重要であると考えられる。

本研究では、YOSAKOIソーラン経験の有無によってYOSAKOIソーラン演舞作品に対する曲と振りの一致度合いの判別力および視点や評価が異なるということが示された。今後の展望として、今回の研究を踏まえ、経験を問わず好まれるようなよりよい演舞作品にするにはどうすれば良いかを検討することが可能であろう。いわゆる「協合的相互作用」や「共鳴現象」などといった知見に代表されるように、聴覚情報が視覚情報に大きく影響を与えていることがわかっている。今後は、「曲」という聴覚情報に特化し、曲調に焦点を絞って研究を行うことによって、より良いYOSAKOIソーラン作品に必要な条件を検証することが必要であろう。

謝辞

本研究は、宮永麻衣(北星学園大学文学部心理・応用コミュニケーション学科2010年3月卒業)の多大なる協力を得た。記して謝意を示す。

1) 本論文は日本心理学会第74回大会で発表した内容(後藤, 2010)に加筆・修正を加えたものである。

引用文献

明尾真弓(1990). 舞踊の評価語に関する研究—ダンス経験が評価基準に与える影響についての一考察. お茶の水女子大学人文科学紀要, 43,

pp. 173-186.

- 後藤靖宏 (2010). 踊り子経験がYOSAKOIソーラン演舞の「曲」と「振り」の関係評価に与える影響. *日本心理学会第74回大会発表論文集*, p. 644.
- 軍司貞則 (1996). *踊れ! 「YOSAKOIソーラン祭り」の青春*. 東京: 株式会社文藝春秋.
- 井原水産&北星学園チームビデオ (2001). ~結~ムゲンノチカラ[VHS].
- 井原水産&北星学園チーム音源 (1997). ムゲンノチカラ[CD].
- 飯田舞 + YOSAKOIソーラン祭り普及振興会 (1996). *YOSAKOIソーラン祭り読本*. 東京: 株式会社すずさわ書店.
- 猪崎弥生・松浦義行 (2004). 舞踊のイメージにおける普遍性の検討. *中京女子大学研究紀要*, 38, pp. 41-52.
- 伊藤友美 (2009). モダンバレエの魅力とは—その因子構造の分析および新奇性評価と“規則性”との関係に関する実験的検討—. *北星学園大学文学部心理・応用コミュニケーション学科学士論文* (未刊行).
- 北川泰斗 (1996). *街は舞台だYOSAKOIソーラン祭り*. 高知: 株式会社高知新聞企業.
- 丸山健夫・安藤明人 (1997). 映像の動きと音楽のテンポのマッチング. *武庫川女子大学紀要*. 人文・社会科学編, 44, pp. 109-112.
- 阪田真己子・八村広三郎・丸茂祐佳 (2003). 日本舞踊における身体動作からの感性情報の抽出: ビデオ映像を用いた評価実験. *情報処理学会研究報告*. 人文科学とコンピュータ研究会報告, 107, pp. 65-72.
- 柴真理子・坪倉紀代子・三宅香・徳家雅子 (1997). 文字情報による擬音語・擬態語の動き・イメージの想起: 舞踊経験者と未経験者の比較. *映像情報メディア学会冬季大会講演予稿集*, 1997, p. 117.
- 菅野禎盛・岩宮眞一郎 (1999). 音楽のリズムと映像の動きの同期が音楽と映像の調和に及ぼす効果. *音楽知覚認知研究*, 5, pp. 1-10.
- 菅野禎盛・岩宮眞一郎 (2000). 映像と音楽の情緒的印象に対する同期要因と速度対応要因の効果. *日本音響学会誌*, 56, pp. 695-704.

[Abstract]

The Synchronization between Music and Body Motion in a Yosakoi Soran dance piece: The Influence of Dancing Experience on Estimation between “Tune” and “Choreography”

Yasuhiro GOTO

The influence of Yosakoi Soran dancing experience on both estimation and impression of a dance piece was investigated. Four types of movies were prepared which combined “meaning” of dance and “tempo” of music: perfect matching, meaning matching, tempo matching and not matching. Participants were asked to estimate the degree of matching and their impressions of all movies. The results were that dancing experience had an influence on their judgment of degree of matching between tune and choreography but did not have an influence on their impression of activity, power, emotion or emphasis. These results show that dancing experts draw attention to both uncomfortable feelings and technical aspects when they appreciate a Yosakoi Soran dance piece. In the future, the relationship between a tune and choreography will be investigated precisely in terms of “type of melody.”

Key words : Yosakoi Soran, Choreography, Music Tune, Synchronization, Experience